

講義名	都市環境論			授業形態	
担当教員	内山 勝久	開講期・曜日・時間	後期 火曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生

主題と概要

この授業は、都市環境の望ましいあり方を学びながら都市のサステナビリティ（持続可能性）について考察することを目的とします。都市ではヒト・モノ・カネ・情報が集まり、活発な経済活動が行われていますが、経済活動の拡大に伴って都市環境が悪化し、地球環境への影響も懸念されています。近年では、こうした都市環境問題を改善し、サステナビリティを高めることが世界各国で求められています。この授業では、都市の自然環境やインフラストラクチャー（都市を支える基礎施設）といった都市の構成要素がもたらすサービスを都市環境として捉え、都市環境を改善し維持するための方法、まちづくりとの関連、さらに、持続可能な都市を構築するにはどうしたらよいかを検討し理解を深めます。

到達目標

自受講生が、
 (1) 都市環境に関わるさまざまな課題を理解し、現代社会の重要課題である環境問題やサステナビリティについて、都市生活との関係性の観点から考察できるようになること、
 (2) 都市の持続可能性を、グローバル化する環境問題と社会的課題の下での地域問題として位置づけ、他国の先進的取り組み事例に学びながら、地域の課題解決のヒントを得ることができるようになること、
 (3) 都市環境問題とその背後に存在する経済活動の関係を理解するとともに、都市環境問題の改善のために経済学の考え方を活用して自らの意見を提案できるようになること、を旨とします。

提出課題

・中間課題として、期中にレポートを提出してもらう予定です。また、期末には期末レポート課題を提出してもらいます。詳細については授業内で説明します。
 ・中間課題では課題図書を指定し、その内容に関するレポートを課す可能性があります。
 ・ほぼ毎回の授業後にリアクションペーパーを提出してもらうことを予定しています。
 ・レポート課題やリアクションペーパーでは、授業等で獲得した知識を応用したり、知識を組み合わせて新しい情報を生み出した（＝考える）ことを求める予定です。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

・提出された課題やリアクションペーパーについては、授業内でコメントしたり、授業の内容に反映する予定です。

評価の基準

・中間レポート課題40%、期末レポート課題60%の比率で評価します。
 ・授業内容に関する確かな質問や優れたレポート、リアクションペーパーの取り組み状況に対しては、満点を越えて加点評価します。

履修にあたっての注意・助言他

・関連する科目に「地域環境政策」があります（採り上げる事例などに一部重複する部分があります）。
 ・この授業では、実習やフィールドワークはありません。
 ・スマホや授業に無関係なサイトの閲覧に関しては他の学生の学修意欲を低下させますので、厳に慎んでください（集中力を維持してください）。
 ・質問があればスマホを検索するよりも教員に尋ねる方が効果的です（質問力も高まります）。質問等で発言が必要な場合は挙手のようで行ってください。
 ・必要な情報や知識がないと効果的に考えることもできませんので、授業では基礎知識の補設が主となります。扱う情報量は多くてもかまいません。自分の意見を形成し、それを支えるための多くの情報や知識を得て理解を深め、考えるための土台や枠組みを身につけていけるよう学生向けの授業となります。情報や知識を暗記する必要はありませんが、新しいことを吸収して視野を広げることに関心のない学生にとっては退屈な授業となるでしょう。

教科書

・特定の教科書は使用しません。					
-----------------	--	--	--	--	--

参考図書

・社会的共通資本。	宇沢弘文	岩波新書	968	9784004306962
・人口減少時代の都市—成熟型のまちづくりへ、	諸富徹	中公新書	880	9784121024732
・21世紀の都市を考える—社会的共通資本としての都市2.	宇沢弘文・園剛守生・内山勝久【編著】	東京大学出版会	3,960	9784130402033

その他

・担当教員が作成した資料を使用して授業を進めます。資料（PDFファイル）は授業支援システム経由で毎回配布します。
 ・参考図書に記載した「21世紀の都市を考える」は、現在は入手困難かもしれませんが、図書館などで閲覧してください。
 ・その他の参考図書は必要に応じて適宜授業中に紹介します。

授業計画

- 第1回 イントロダクション： 授業のねらいや都市環境の課題について
- 第2回 都市と自然環境（1）： 大気汚染
- 第3回 都市と自然環境（2）： ヒートアイランドと熱環境の改善
- 第4回 都市と自然環境（3）： 水環境・緑地
- 第5回 都市と自然環境（4）： 災害と防災・減災
- 第6回 都市インフラと環境（1）： エネルギー供給と脱炭素型都市
- 第7回 都市インフラと環境（2）： グリーンインフラ
- 第8回 都市インフラと環境（3）： 都市交通と環境
- 第9回 都市インフラと環境（4）： 廃棄物処理と資源循環
- 第10回 都市インフラと環境（5）： インフラ老朽化問題
- 第11回 まちづくりと都市環境（1）： コンパクトシティ
- 第12回 まちづくりと都市環境（2）： 高齢化と観光
- 第13回 まちづくりと都市環境（3）： 都市環境の評価
- 第14回 全体のまとめ（1）： 都市のサステナビリティ
- 第15回 全体のまとめ（2）： 社会的共通資本としての都市

授業の進捗状況等により、順序を変更することがあります。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・授業前に、事前に配布された授業資料を目を通し、授業内容に関する自分なりのイメージを持っておいください（その上で授業に臨むこと）：約1時間/回。
 ・授業終了後は、記憶が鮮明なうちに復習してください（復習してわからなかった点は質問してください）。復習では与えられた情報を要約したり分類整理したりして理解し、明確して自分の血肉とすることが求められます（情報の要約や分類整理は勉強の基本です）：約1.5時間/回。さらに、毎回の授業のなかで自分が関心を持ったトピックについて新聞・雑誌・信頼できるウェブサイトなどでより詳しく調べて、自分の問題意識を醸成してください：約1.5時間/回。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目の到達目標を達成することで、都市環境の観点から都市のサステナビリティや現代社会の重要問題の一つである持続可能な社会の構築に関して考察できるようになり、さらに、諸外国でも採用されている都市環境政策の経験の事例の知識を習得することを通して、都市や地域で生起する環境問題に対して改善策を提案できるようになります。
 これは、経済学部経済学科の学生が卒業時に獲得しておくべき資質・能力である、人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の基礎を身につけて、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察して課題を提案したり、経済学を基盤にして、複雑化する地域社会で生起する問題を読み解き、解決策を提案したりすることができる能力が備わることにつながります。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

・リアクションペーパーの提出などにクリックカー（レスポンス）を利用する予定です。

実務経験の有無及び活用

備考